

令和5年度第1回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和5年8月29日（火）午前10時～午前11時

場所：富山県民会館 613号室

議題：（1）本県における手話関連施策の状況について
（2）第5次富山県障害者計画の策定について
（3）その他

委員からの主な意見

（1）手話関連施策について

- ・ 観光分野における手話の普及について、内容を充実させて欲しい。手話とは異なるが、他県のホテルに宿泊した際にテレビに字幕が表示されないように設定されていた。
- ・ 情報バリアフリーについて、情報アクセシビリティのように、誰でも情報が得られるといった内容を計画に盛り込むことが必要なのではないか。
- ・ デフリンピックに向けて選手を養成できるように環境を整備していただきたい。
- ・ 合理的配慮の部分で、当事者の声をよく聞き、施策に盛り込んでほしい。
- ・ なかなか声を上げられない当事者もいるので、行政側が積極的に進んで考えて対処していくようにすべきではないか。
- ・ 出前講座について、市町村の教育機関でもPRしていただきたい。
- ・ 聴覚障害者の災害対策について、避難先で情報が入りづらいため、手話通訳者の配置等、個別の支援体制を整備し、防災対策に取り組んでいただきたい。
- ・ 高齢の聴覚障害者の支援をしている介護施設が1ヶ所（NPO法人）しかない状況。聴覚障害者の高齢化も進んでおり、支援機関を増やすなど、高齢の聴覚障害者への支援策を計画に盛り込んでいただきたい。
- ・ 難聴児支援の協議会が今年度中に設置される方向と聞いている。ライフステージに応じ、切れ目のない支援が必要であり、聞こえない/聞こえにくい子どもなど、当事者の相互の交流や相談、情報交換をすることのできる機会を設けると良いのではないか。また、その繋がりを意識できるコーディネーターも養成しなくてはいけない。

（2）手話通訳者について（健康や雇用等）

- ・ 手話通訳者での健康診断を受ける人が少ない。健康に対する関心が低い状況であり、県障害福祉課からも働きかけをお願いしたい。
- ・ 手話通訳者のほとんどは非正規雇用。社会全体が通訳者の専門性を正しく評価できていない。